

地方大学振興に関する有識者会議(第三回)

都市部の大学と地方との交流
地域活動の意義・今後のキャリア

早稲田大学社会科学部 卒
大日本印刷株式会社

清水遥人

agenda

- 00** 自己紹介
 - 01** 大学時代の活動
 - 02** 学び・キャリアへの影響
 - 03** 卒業後の活動
 - 04** Appendix
-

00 自己紹介

清水 遥人(しみず はると)



出身：東京都

資格：狩猟免許 罟猟

略歴：

2025年3月 早稲田大学社会科学部 卒業

副専攻「地域連携・地域貢献」修了

同年4月 大日本印刷株式会社 入社

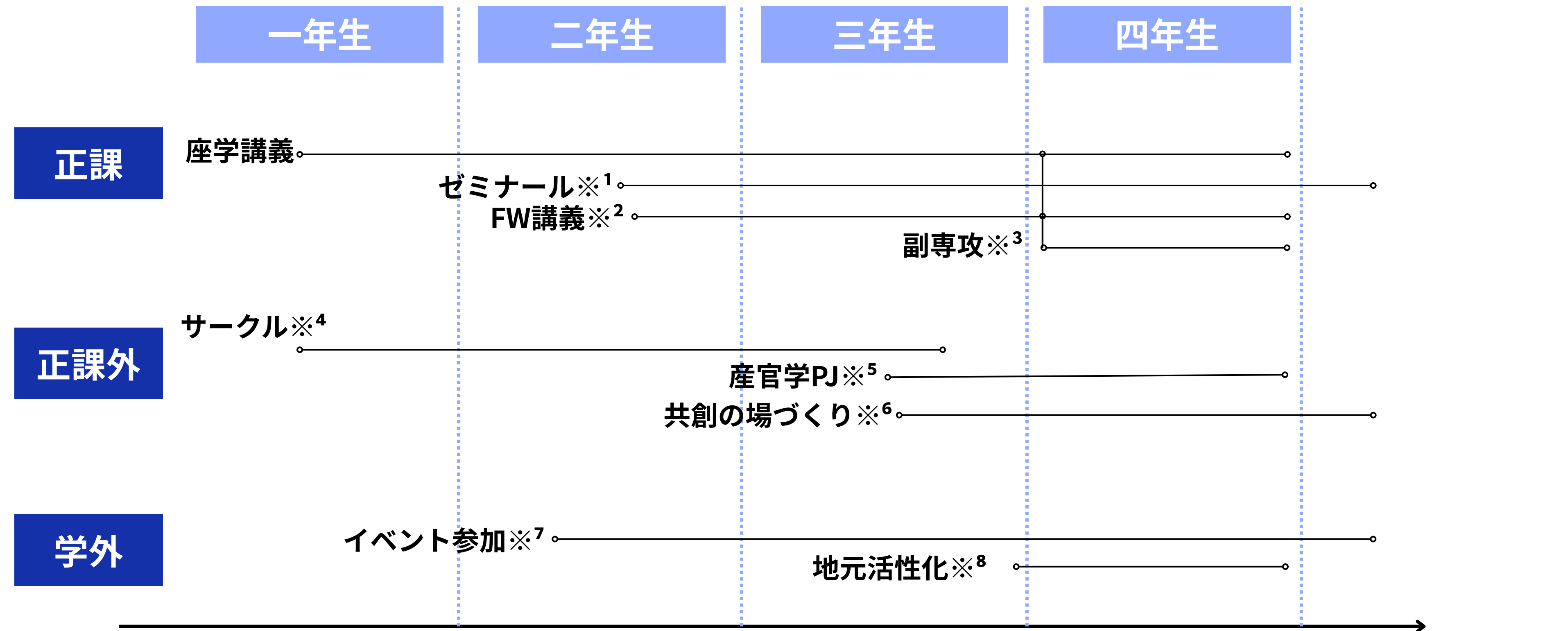
同年5月 福岡で勤務

O

1

大学時代の活動について

01 大学時代の活動(全体図)



※¹：早稲田大学社会科学部「農村デザイン研究ゼミナール」(<https://rural-design.w.waseda.jp/>)

※²：早稲田大学設置の各種フィールドワーク型の講義

※³：早稲田大学全額副専攻「地域連携・地域貢献」(<https://www.waseda.jp/inst/sr/education/minor-community/>)

※⁴：早稲田大学ロータリーの会(<https://www.rotary-waseda.com/>)

※⁵：社会科学部インテンシブプログラム(<https://dpt-intensive.w.waseda.jp/update/?p=448>)

※⁶：学内外、教職員学生、自治体などの垣根を越えて繋がりを作る試験的な取り組み

※⁷：企業主催のFWツアー、プログラム、官公庁シンポジウムなど様々。

※⁸：ひばりフェスタ(<https://842fm.com/blog/waiwai-waiwai/60564/>)

one scene西東京(<https://youtu.be/hD-CS8gpPxI?si=HJ537bmy8jgaXrp0>)

01 大学時代の活動(詳細)

正課

一年生

二年生

三年生

四年生

座

地域のごみ問題解決に取り組む早稲田大学「WAVOC」所属サークル。地域住民の方や行政と連携しながら様々な活動を行っている。

文科省「インテンシブプログラム」採択事業の一環として、山形県西川町、JAL、早稲田大学社会科学部による産官学連携地域課題解決提案型のPBLプロジェクト。

正課外

サークル※⁴

農水省「経済・生活環境創生プラットフォーム」シンポジウム・総務省「お試し地域おこし協力隊」・民間企業主催プログラム等

産官学PJ※⁵

創の場づくり※⁶

自身の地元の商店街と連携した商店街活性化のためのお祭りの開催、行政主導の「市民協働事業提案」への参画など。

イベント参加※⁷

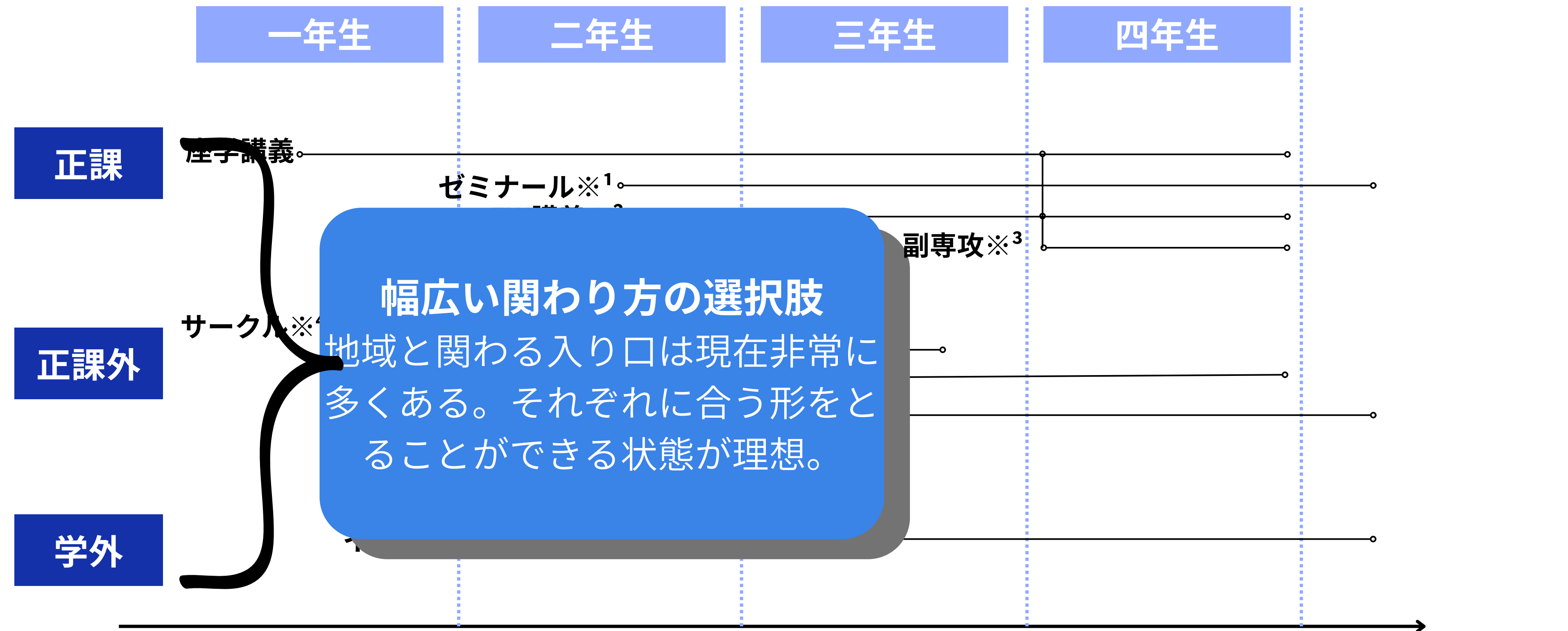
地元活性化※⁸

学外

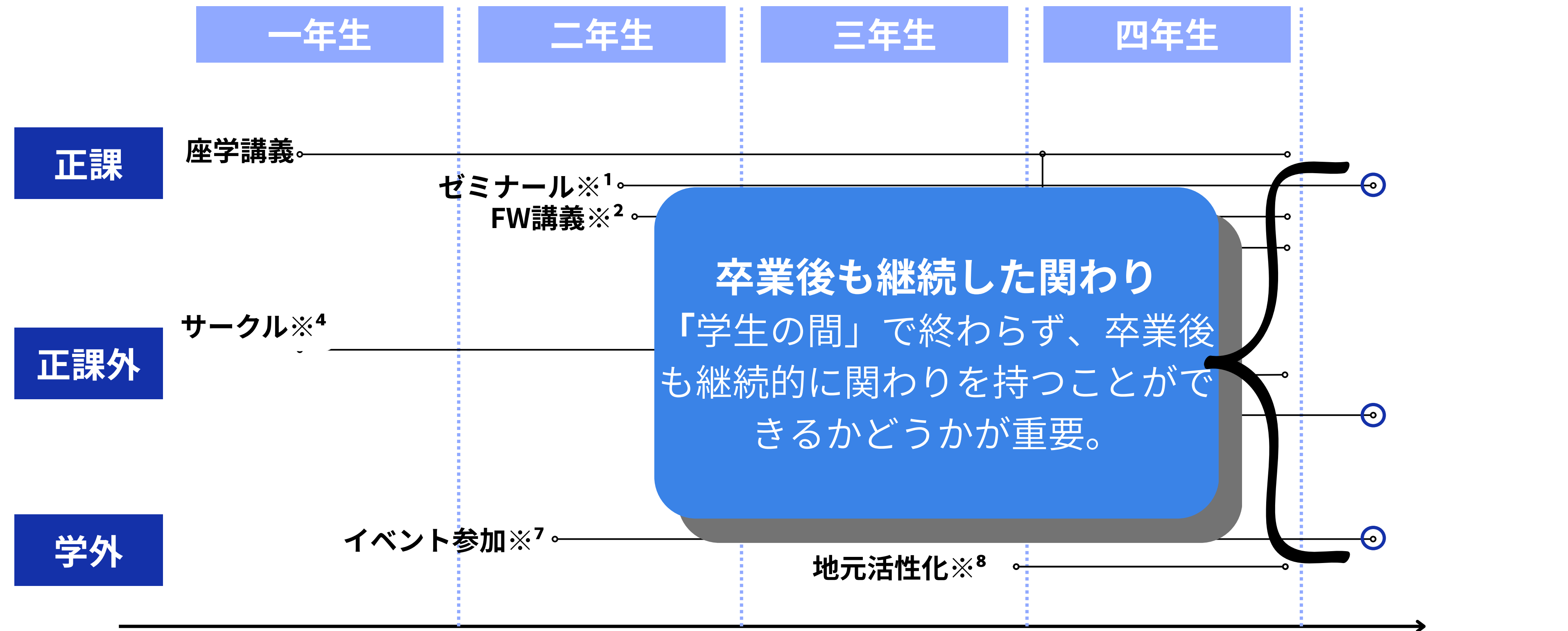
※¹：早稲田大学社会科学部「農村デザイン研究ゼミナール」(<https://rural-design.w.waseda.jp/>)
※²：早稲田大学設置の各種フィールドワーク型の講義
※³：早稲田大学全額副専攻「地域連携・地域貢献」(<https://www.waseda.jp/inst/sr/education/minor-community/>)
※⁴：早稲田大学ロータリーの会(<https://www.rotary-waseda.com/>)

※⁵：社会科学部インテンシブプログラム(<https://dpt-intensive.w.waseda.jp/update/?p=448>)
※⁶：学内外、教職員学生、自治体などの垣根を越えて繋がりを作る試験的な取り組み
※⁷：企業主催のFWツアー、プログラム、官公庁シンポジウムなど様々。
※⁸：ひばりフェスタ(<https://842fm.com/blog/waiwai-waiwai/60564/>)
one scene西東京(<https://youtu.be/hD-CS8gpPxI?si=HJ537bmy8jgaXrp0>)

01 大学時代の活動(ポイント①)



01 大学時代の活動(ポイント②)



※¹：早稲田大学社会科学部「農村デザイン研究ゼミナール」(<https://rural-design.w.waseda.jp/>)

※²：早稲田大学設置の各種フィールドワーク型の講義

※³：早稲田大学全額副専攻「地域連携・地域貢献」(<https://www.waseda.jp/inst/sr/education/minor-community/>)

※⁴：早稲田大学ロータリーの会(<https://www.rotary-waseda.com/>)

※⁵：社会科学部インテンシブプログラム(<https://dpt-intensive.w.waseda.jp/update/?p=448>)

※⁶：学内外、教職員学生、自治体などの垣根を越えて繋がりを作る試験的な取り組み

※⁷：企業主催のFWツアー、プログラム、官公庁シンポジウムなど様々。

※⁸：ひばりフェスタ(<https://842fm.com/blog/waiwai-waiwai/60564/>)

one scene西東京(<https://youtu.be/hD-CS8gpPxI?si=HJ537bmy8jgaXrp0>)

02

学び・キャリアへの影響

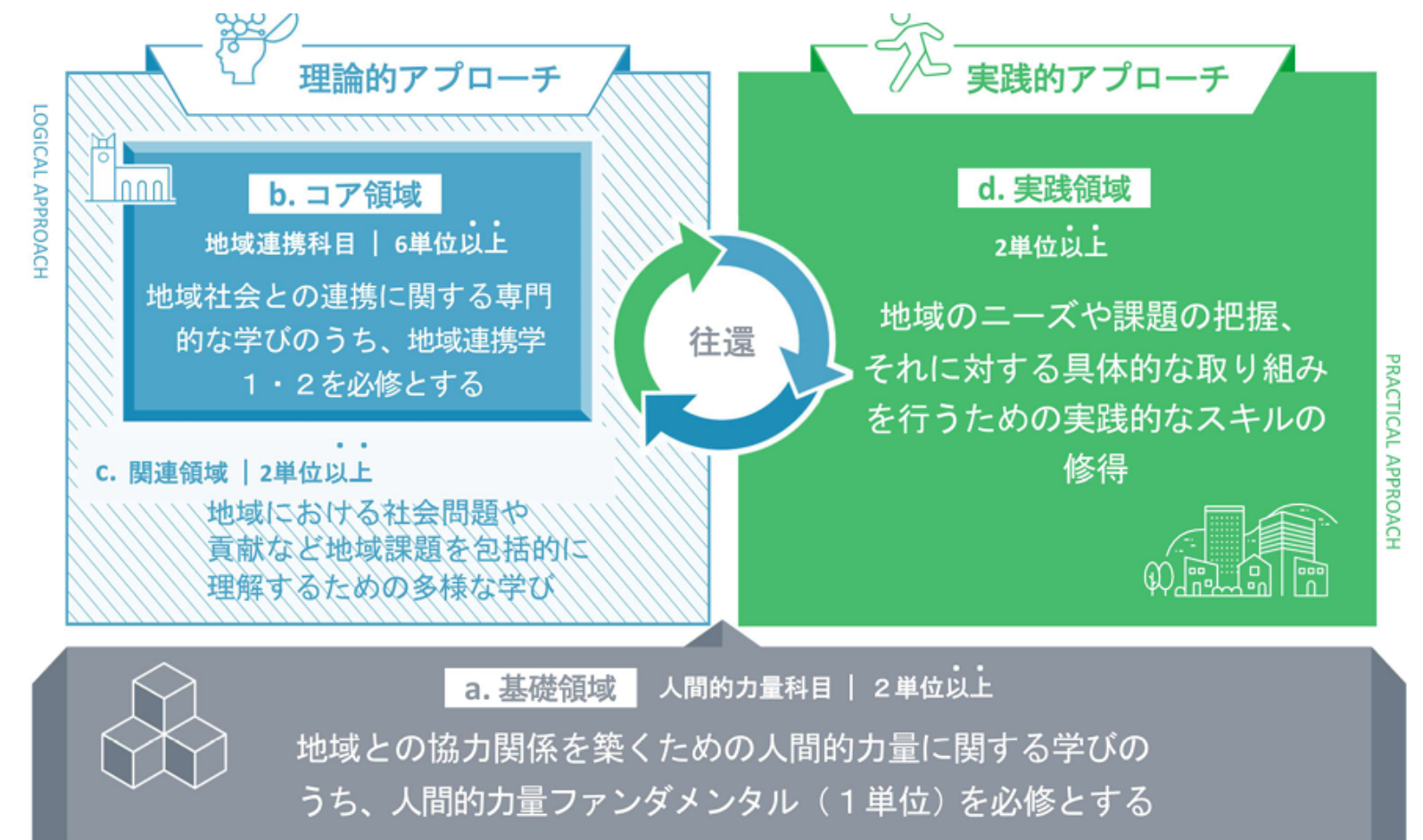
02 学び・キャリアへの影響①

「理論と実践」の往還

文系学生における「実践」はアウトプットしにくい、理論偏重に。
→地域という場は最も身近に、手触り感を持って理論と実践の往還ができるフィールド、テーマの1つ

⇒PDCAの実践

現場の学び・五感での体験の価値 社会では…



PDCAの実践の質を高める

机上の空論 → 実態に寄り添う価値の創出

※なお、私にとって地域での活動は、「地域を少しでも盛り上げたい」という目的のために実施するものであり、「社会で活かせる学び」を得るための手段として実施してはいたくないことにご留意いただきたい。

02 学び・キャリアへの影響②

ものさし、選択肢、交友関係の広がり

それまでになかった経験、知識、
人との繋がりを得ることができた
→物事を考えるうえで、単一的では
ない多面的な考え方ができるよう
になった
→全国に 「また行きたい」「また
会いたい」と思う地域、人がたく
さんできた。全く背景の違う人たち
と一緒に何かを行う経験

⇒他者視点

多角的な思考(環境・社会・経済)
コミュニケーション力・共創

社会では…

顧客視点での価値設計・D&Iへの理解
クリティカルシンキング
共創による価値創出



※なお、私にとって地域での活動は、「地域を少しでも盛り上げたい」という目的のために実施するものであり、「社会で活かせる学び」を得るための手段として実施してはいいことにご留意いただきたい。

02 学び・キャリアへの影響

他者視点

多角的な思考

体験の重要性

コミュニケーション

共創



対話を重ねることで適切に現場の実態を理解し、
単一の商材ではなく幅広いソリューションで、
協働、共創によって社会に新しい価値を提供できる、
そんな仕事がしたい

※地域活動＝キャリアへの影響というわけではなく、地域活動の上での学びから自分なりに「意味づけ」
をすることができてはじめて、その後の選択肢に影響を与えていくプロセスになるように思う。

03

今後の活動

03 卒業後の活動(予定含む)

活動	詳細
静岡県伊豆市天城湯ヶ島地区	ゼミで関わっていた地域と継続的に関わるため、外部の助成金を獲得し継続的な都市農村交流活動、地域資源循環の取り組みの実施
大学生と卒業生の交流	地域活動に関心がある学生と、社会でそれらを実践する卒業生を繋ぐ場づくり
地域イベント等への参加	大学時代同様、一般に開放されているプログラムへの積極的参加。
社会人としての取り組み	志望して東京以外の地域で勤務 産官学連携の取り組みに、企業側として参画する 会社のリソースを活用して地域課題の解決に取り組む、など。

03 卒業後の活動

学生では出来なかったこと



社会人で出来るようになること

学生では出来たこと



社会人では出来なくなること

整理しながら活動

ご清聴ありがとうございました

mail:Shimizu-H27@mail.dnp.co.jp
kwi@akane.waseda.jp

04

Appendix

04 Appendix-活動を踏まえての課題感

課題	詳細
短期的な関係性	授業をはじめとした大学内での関わりは、短期的なものが多い。正課の枠を超えてそれ以降の関係を作るには、地域側、学生側、大学側それぞれに追加でコミットが必要。
ニーズベースではなく偶発的	大学と地域の繋がりや、教員がたまたま地域の担当者と知り合いだったから、という関係性で始まることも多く、双方認識のしっかりとしたすり合わせが行われないまま始動することも。地域、学生のニーズが合致した状態の連携の必要性。
時間軸の違い	学生は基本的に四年間で入れ替わるが、地域はずっと続いていく。また、行政が事業をつくれるのは予算作成の時期になってから、など、地域、大学、学生、行政、それぞれが違う時間軸を持っているためストレスのない連携が難しい。それを念頭に入れた仕組みづくりの必要性。
金銭的、カリキュラム的制約	金銭的な問題や、授業との兼ね合いなどの点から、頻繁に実際に地域に訪れることが非常に難しいため、浅い関係性しか築けない場合も多い。そのため、自分たちで費用獲得に取り組んだり、休学して地域での学びと実践の最大化を図るなどの動きをする学生も多い。そのような学び、活動を単位や評価軸として認定する仕組みづくりの必要性。
目標設定の難しさ	学生と農村の関わりは長期的な目標を設定することが難しく、惰性的な付き合いや、連携疲れに陥ることが多い。
大学→社会の接続	学生時代の知識、経験を直接的に社会人として活かすことは非常に難しい。(地域連携・地域貢献という副専攻をどのように社会で活用するか?) 立場が変わることで関わりが減ったり、対話しにくくなったり、学生と同じようには出来ないことが増える。(その分社会人として出来るようになることもある)そのギャップの埋め方のノウハウはなく、自助努力が必要な現状がある。

【参考】

・内平,中塚,布施(2013)『学生の地域活動コミュニティの課題と組織的支援』農業問題研究

・内閣府経済社会総合研究所(2016)『大学が地域に貢献する上での課題と対応策』大学等の知と人材を活用した持続可能な地方の創生に関する研究会報告書

・中塚,小田切(2016)『大学地域連携の実態と課題』農村計画学会誌

04 Appendix-大学時代の活動詳細

タイトル

社会科学部農村デザイン研究ゼミナール

連携地域

静岡県伊豆市天城湯ヶ島地区茅野

概要

大学二年後期より開始のゼミで参加。もともと担当教員の繋がりがあった地域であり、学生との連携を通じて地域の活性化を目指していた。地域の任意団体とのかかわりを中心に、

商品開発、マルシェの開催、獣害対策、観光振興、農業体験、お祭りへの参加を行った。静岡大学との連携活動なども実施。

成果

学生と地域の継続的な関わりづくり。地元新聞に取り上げられる活動も生まれるなど、精力的に関係構築。学生有志により、卒業後も関わりを継続するために助成金の獲得も行い、現在OBも含めて地域と継続的に関わりを持っている。

参考リンク

<https://rural-design.w.waseda.jp/>

<https://news.at-s.com/article/1621480>

<https://www.shizuoka-murasapo.net/info/89362311/>

04 Appendix-大学時代の活動詳細

タイトル

早稲田大学ロータリーの会

連携地域

東京都新宿区

概要

早稲田大学公認サークルWAVOC「早稲田大学ロータリーの会」へ入会したことで参加。新宿区高田馬場駅前ロータリー広場のゴミ問題解決に取り組むサークル。広場の清掃活動・企業と連携した清掃、啓発活動・地域住民との協議・行政への政策提言などを行う。

成果

幅広いアクターへの、広場のごみ問題の啓発に大きく貢献。それまで全員がごみの存在を認知していながら手つかずだった問題に対して、学生からアプローチすることで関心、対策への機運の高まり。

参考リンク

<https://www.rotary-waseda.com/>

04 Appendix-大学時代の活動詳細

タイトル

早稲田大学社会科学部インテンシブプログラム(文部科学省 知識集約型社会を支える人材育成事業)

連携地域

山形県西川町

概要

社会科学部が採択された文科省事業内で、PBLプログラムとして産官学連携による地域の課題解決提案。町長がOBである山形県西川町、日本航空、社会科学部の三者による半年間のプログラムを実施。

成果

二回の現地訪問、最終発表による学生目線での地域への提案及びその提案を基にした西川町での事業の開始。プロジェクト終了後も継続的な関わりを持ち、別の取り組みへも派生。産官学連携の難しさや、それを乗り越えるためのナレッジの蓄積。

参考リンク

<https://dpt-intensive.w.waseda.jp/update/?p=670>

<https://www.waseda.jp/fsss/sss/news/2023/07/31/12003/>

<https://dpt-intensive.w.waseda.jp/update/?p=448>

04 Appendix-大学時代の活動詳細

タイトル

農とSDGsの実践

連携地域

三重県御浜町、愛媛県西条市、熊本県山都町など

概要

早稲田大学社会科学部設置の実践型講義。学部や学年を横断したグループをつくり、実際に地域を訪れ、サステナブルな取り組みを調査する。地域によっては、現地の大学との連携も行い、都市、地方双方の視点から多面的な分析を行う。

成果

各地域の「ローカルSDGs」の取り組みの理解、現地大学との連携、成果報告シンポジウムの開催など。

参考リンク

https://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/kiji0039336/3_9336_20669_up_ok2hjsaj.pdf

<https://www.jacom.or.jp/kinyu/news/2023/11/231117-70721.php>

04 Appendix-大学時代の活動詳細

タイトル

早稲田大学地域連携ガク部-結の芽-

連携地域

全国各地

概要

「地域連携・地域貢献・地域活動」に関心がある主体同士の連携の難しさに課題意識を持ち、早稲田大学を中心に各地で取り組む学生、教職員、卒業生らが繋がれる交流の仕組みづくりを実施。

成果

大学と学生が連携した地域貢献を推進する制度設計の始動・年間合計200人を超える参加者が訪れるイベントの開催・学部や学年、大学の垣根を超えた繋がり創出と、そこから新規のプロジェクト創出・情報共有の場の整備・自治体や学生の相談窓口機能など。

参考リンク

<https://yuinome.com/>

04 Appendix-大学時代の活動詳細

タイトル

ひばりフェスタ

連携地域

東京都西東京市

概要

地元商店街を盛り上げる取り組みの一環として、イベントの開催が計画。そこに学生として参画し、企画から実施までを商店街、行政、地域の生徒の皆さんらとの協働により実施。

成果

地域と若者の接点づくり・商店街の認知拡大、活性化・二つの商店街のネットワークづくり・新たな商店会加入者・継続的な開催に向けた協議など。

参考リンク

https://www.city.nishitokyo.lg.jp/siseizyoho/region_community/chiki_kyougital/nishinishi_hibarifesta.html

<https://842fm.com/blog/waiwai-waiwai/60564/>

04 Appendix-大学時代の活動詳細

タイトル

one scene 西東京

連携地域

東京都西東京市

概要

行政の公募事業「U29協働提案事業」に応募。地域で実践してみたいことに市が助成金を出す取り組みで、地域の魅力を若者視点で発信する事業を提案、採択。

成果

地域の魅力の再発見・行政と若者の繋がりづくり・地域活動をする若者と市政との連携・若者の街づくりへの機運醸成など。

参考リンク

https://www.city.nishitokyo.lg.jp/siseizyoho/npo_kyodo/kikakuteian/r6/U29_onescene.html

https://www.city.nishitokyo.lg.jp/siseizyoho/npo_kyodo/kikakuteian/r6/R6U29.html

<https://www.youtube.com/watch?v=hD-CS8gpPxl>

04 Appendix-大学時代の活動詳細

タイトル

トヨタ白川郷自然学校 SDGs担い手育成講座

連携地域

岐阜県白川村

概要

世界遺産にも登録されている合掌集落が有名な白川村で、地域の暮らしを体験しながらSDGsについて学ぶ。全国各地から学生が集まり、年四回のフィールドワークを通じて五感で学ぶ講座。

成果

全国各地の学生との繋がり・白川村のサステナブルな生活の体感・SDGsへの関心の高まり・卒業後の継続的な関係性づくりなど。

参考リンク

https://note.com/tsei_symbiosis/n/nde3c6d079b69

<https://toyota.eco-inst.jp/news/2025-sdgs-ninaiteikusei/>

https://note.com/shirakawa_team
